Water Based Rooftop Waterproof Paint

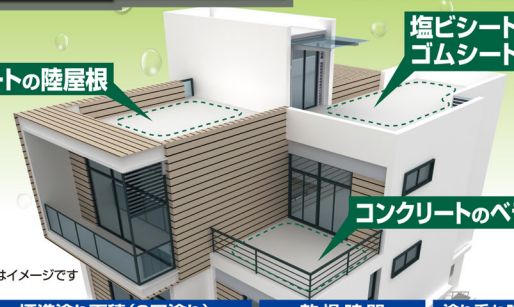
アサヒペン

陸屋根やベランダの簡易防水・防塵

水性 簡易屋上防水塗料

各種シート・ウレタン塗膜防水面にも!

※ゴムシート、ウレタン塗膜防水面は専用シーラーが必要です。



※写真はイメージです

紫外線劣化防止剤(HALS)配合

16kg

鉛 無鉛塗料 鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積(2回塗り)	乾燥時間	塗り重ね時間の目安
17~21㎡ タタミ 10~13枚分	夏期/1~3時間 冬期/3~5時間	夏期/2時間以上 冬期/6時間以上

塗りにくいときは 水(5%以内)でうすめて下さい

注意書きをよく読んでからご使用下さい

商品名 水性簡易屋上防水塗料　**品名** 合成樹脂塗料(水系)

成分 合成樹脂(アクリル)、顔料、紫外線劣化防止剤(HALS)、水

特長 ● 厚塗りタイプの簡易防水塗料です。● 特殊架橋システム及び紫外線劣化防止剤(HALS)により、耐候性・耐久性に優れた高性能塗料です。● シート防水面への密着性に優れ、塩ビシート、アスファルト防水面に直接塗装できます。● 酸性雨・酸性雪・塩害に強い塗料です。● 取り扱いが簡単で、乾燥が速い水性タイプです。● 骨材の働きにより、滑り止め効果もあります。● 万能用ローラーハケで簡単にきれいに塗装できます。

用途 ● 陸屋根やベランダのコンクリート、モルタルの簡易防水・防塵● 各種シート防水面[塩ビシート、ゴムシート(EPDM)]、アスファルト防水面、ウレタン塗膜防水面(ゴムシート及びウレタン)防水面等にはあらかじめ専用シーラーとの密着性の確認必要)FRP防水面には塗装できません。絶えず水がかかったり水につかるところや、いつも湿っているところには適しません。

塗装方法

①● はがれかかった古い塗膜は、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して十分に取り除きます。
● 塗る面の汚れ・ホコリ・砂・コンクリートのアク・カビなどを取りデッキブラシなどを使って十分に水洗いし、よく乾かします。
● カビはカビトリ剤で、油分はペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
②● 塗料がついては困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
③● あらかじめアサヒペン水性簡易屋上防水塗料専用下塗りシーラーを下塗りしておきます。(下の下地処理の注意のように、油性シーラーでの下塗りが必要な場合もあります)
④● 塗料は、棒などで容器の底から十分にかき混ぜて均一にします。フタを開ける前に、容器を逆さまにして十分振り動かせば、よく混ざります。
● 塗料を使いきる場合は、容器の天面を缶切りなどで切り開き、棒などで底から十分にかき混ぜて均一にします。
● 塗料の粘度が高く塗りにくいときは、水で少し(5%以内)うすめます。
⑤● コーナーや塗りにくいところは、先にすじかいハケで塗ります。広い面積の部分はローラーハケを使い、均一にたっぷり(0.4~0.5kg/㎡)塗ります。
● 1回塗りの面が十分に乾いてから、必ず2回目をたっぷり(0.4~0.5kg/㎡)塗ります。
● マスキングテープは、塗装後すぐにはがします。

用具の手入れ方法 塗料が乾かないうちに、水か湯で洗って下さい。

下地処理の注意 ①つるつるした面は、サンドペーパーで表面を荒らしてから塗って下さい。②ヒビ割れ・穴・ヘコミ・カケなどは、あらかじめセメントやコーキング材などで補修しておきます。③コンクリートやモルタル面の劣化が著しく、手で触れて、手に粉がついたり、ボロボロと取れるような場合には、きれいに除去してから油性シーラーを下塗りして下さい。④新しいコンクリートやモルタル面に塗る場合は、施工後1ヶ月以上経ってから行い、必ず油性シーラーを下塗りして下さい。

保管上の注意 ①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたずらをしないように注意して下さい。②直射日光や火気のある場所、−5℃以下になるところ、自動車内など温度が高くなるところ、容器がさびやすいところには置かないで下さい。③残った塗料は、しっかりとフタを閉め、できるだけ早く使い切って下さい。

取扱い上の注意 ①表示の用途以外に使用しないで下さい。②目に入ったり、皮膚に付着しないよう、また誤飲しないよう注意して取扱って下さい。③塗料がついても支障がない服装で作業して下さい。④塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に、風通しをよくして塗って下さい。塗装後1日(夏期)~3日(冬期)以内に結露したり雨がかかったりすると、ふくれ・ハガレや塗膜が溶解する場合があります。⑤塗るときおよび塗った塗料が乾くまでの間も、5℃以下にならないような時間に塗って下さい。⑥気温が高い時(特に夏期)に塗装する場合、塗料の表面が早く乾いてしまうので、何度も返し塗り(ハケ返し、ローラー返し)をせずに、すばやく塗って下さい。また、容器内の塗料の皮パリを防止するため、フタを開けたまま放置しないで下さい。⑦降雨や水洗いの後には、2日以上、下地を十分に乾燥させないと、水分の影響で乾燥が遅れたり、塗膜にふくれを生じることがあります。⑧あらかじめ目立たない部分で試し塗りをして、色・乾燥性・下地への影響・密着性などを確かめてから塗装して下さい。シリコン系・フッ素系・その他特殊防水処理をした面や、強化コンクリート・コーキング材・シーリング材、ゴムシート防水面の一部やウレタン塗膜防水面の一部のものには、塗料が密着しないことがあります。⑨表示の色・ツヤは実際のものと多少異なることがあります。⑩陸屋根を塗る場合は、降りるところが最後になるように順序を考えて塗装して下さい。また、転落事故のないよう十分に注意して下さい。塗料が乾燥するまでは、たいへん滑りやすいので、塗膜の上を歩かないよう注意して下さい。⑪標準塗り面積を守って塗装して下さい。(1回塗り0.4~0.5kg/㎡使用します)うすめすぎたり、うすく塗りすぎるとうまく仕上がらない場合があります。また、あつく塗りすぎるとふくれ・ハガレが生じる場合があります。⑫塗装後重いものを置く場合は、7日以上経ってから置くようにして下さい。⑬本品は簡易防水塗料ですので、十分な防水効果が得られない場合があります。⑭外壁などにひび割れやすき間があると、本品を陸屋根などに塗装しても、雨水がしみこみ塗膜がふくれたり雨漏りが止まらない場合がありますので、外壁などの点検補修を行って下さい。⑮塗り面積・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。⑯塗膜が水で濡れると、濡れ色となり濃くなることがあります。⑰容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。⑱やむをえず塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。

危険

● 強い眼刺激
● 臓器の障害
● 水生生物に有害

救急処置
● 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
● 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
● 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
● 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。

株式会社アサヒペン
大阪市鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp
お客様相談室 ☎06-6934-0300

プロテクター:プラスチック(PP)
容器・キャップ:スチール

日本製
01-1201